

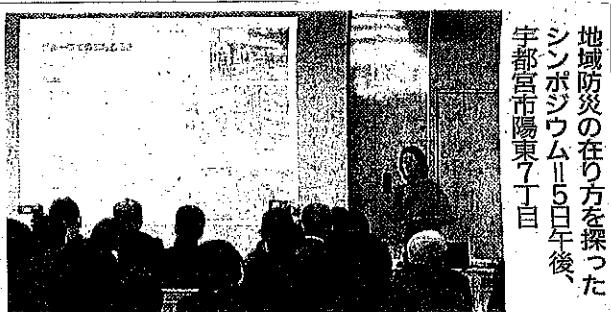
地域防災力の強化目指して

宇大でシンポ
研究発表や講演

宇都宮大地域デザインセンターは5日、同大陽東キャンパスで地域防災の在り方を探るシンポジウムを開いた。学生や行政、県防災士会の関係者ら約150人が参加し、地域防災力の強化に向けた取り組みや姿勢を学んだ。

シンポジウムでは、県、国土交通省関東地方整備局下館河川事務所、那須塩原

市が防災や気候変動への対応策を紹介した。県危機管理防災局は2024年の能登半島地震を踏まえて避難所の生活環境を見直している



るとし、トイレカーの配備や災害関連死を防ぐための食べやすい食事の検討などを進めていると説明した。

宇都宮大の准教授らによる研究発表では、留学生・国際交流センターの飯塚明子准教授が、留学生と町を歩きながら危険な箇所や、災害時に避難所として役立つそうな場所を見つける企画の成果を述べた。

首都圏での大規模災害をテーマとした講演も行われた。同大の米田雅子理事は、首都圏を中心とした国難級の災害に見舞われた場合、本県が重要なバックアップ拠点になると強調。特に工業地帯の多くは沿岸部にあるため、内陸部にある北関東の工業地帯が重要な役割を担うといい、「自分たちが日本を助ける地域に住んでいることを心にとどめてほしい」と訴えた。

(平山紗也華)

地域防災の在り方を探った
シンポジウムは5日午後、
宇都宮市陽東7丁目